

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

② 新聞紙 R6年5月13日 幼児クラス

施設番号	66-1441
施設名	府中緑町・学びの保育園
施設所在地	府中市緑町1-6-3
法人名	社会福祉法人育木会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

②新聞紙で遊ぶ

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

普段見慣れない新聞で遊んでみる。

見慣れないため遊びを自ら生み出してみる。

2. 活動スケジュール

保護者の方に協力いただき、新聞紙をある程度ためておく。(買い物かご3つつ分ほど)

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

新聞紙 (買い物かご3つつ分ほど)

ゴミ袋45リットル10枚程度

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

新聞の活動。

日頃見なれない、もしかしたら初めて見る子もいるかもしれない新聞を使用して遊んでみる。遊び方を知らないのだから自ら遊びを作り出す経験をする。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

保育者が新聞を床にはらはらはらりと置いていくと、見慣れないせいもあるのか「なんだろう」という表情。ここで保育士は我慢をして「こうやって遊ぶんだよ」とやって見せることはしない。「何もしていないように見える」は大人の主観であり、何もしていないはずがないことを知る。最初はドラえもん探しをしていた子どもたちだが、少し経つと畳んだり広げたり、びりびりと破いたり体に巻き付けたり、床に並べて「お家だよ」という子、たくさん集め、山を作ってもぐり「あったかい」と言ったり。様々なものに見立てて遊びはじめた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

大人が子どもにやってみせることは子どもの想像を止めてしまうこと。床に敷かれた新聞を目にしてじっと動かずに座っていた子どもたち。それ何もしていないと判断するのはただの大人の主観。何もしていないのではなく、感触を確かめたりよく考えていたことが分かった。新聞でたくさん遊んでくたたくになると個の遊びから集団の遊びに変化し、友達との協力（共同作業）が生まれ、たくさん運び出し山を作り始める。大人は環境の設定をするだけで働きかけしないほうが自ら遊びを生み出したり、遊びが深まることを知る。